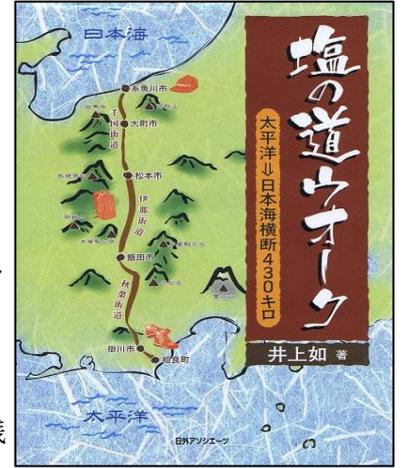


第1節 「番外編——旧塩の道（秋葉古道）」トレイル
～ [初挑戦—木っ端微塵の一つ星（途中リタイヤ／後付け）] ～

定年退職の翌年に、「歴史街道スルーハイク」トレイルをやりたと思う
充滿した気持ちを抑えきれずに、満を持して、2010（平成22）年、前記
「第一部 プロログ」記載の図—1「塩の道ウォーク（太平洋⇒日本海横
断430キロ）」に挑戦しました。しかし、途中挫折でリタイヤしたので
す。

結果して、標記旧街道を正身同年5月25日（火）～5月28日（金）の3
連泊4日間、静岡県相良スタート→同県掛川市→同県周智郡森町→同県浜松
市春野町→（秋葉山）→同県浜松市水窪町と歩き、後述の通りの理由があっ
て止むを得ずそこで打ち切ったのです。ルート沿い計画距離96 kmに対する
実歩行距離は106 kmでした。全ルートの概要は図—2のとおりで、足跡を残
した通過県は静岡県のみでした。



図—1

1. 魔物に^{ほんろう}翻弄

前日5月24日（月）静岡県牧之原市相良まで電車移動し、その宿に泊まり、翌日5月25日（火）の
早朝、太平洋の海岸に立ち、200 ccペットボトル2本に海水を汲み上げ
て入れ、これを背負い、日本海を目指して潔くスタートしました。この
海水を背負う事にしたのは、最終目標を日本海と決意した瞬間に浮かん
で来た事でした。これは「塩の道ウォーク」（日外アソシエーツ社／井
上如氏 著）に、海水を背負った人が紹介されていた事に刺激を受け
て、私も見習い実践しようとしたのです。太平洋側基点は静岡県牧之原
市相良となっているのでここを出発点にしました。なお、一般的にも、
同本で紹介のとおり、相良から日本海側糸魚川を目指して北上する歩き
方が取られています。

歩き始めたものの、初日の午後には、左右の足は、靴にこもった熱と
摩擦で足全体に火ぶくれ状態の炎症が起きてしまったのです。初日の夜
の宿に着いてから、まずは水で冷やし、針を借りて火ぶくれを潰して中
の皮下水を絞り出し、途中の薬局で買った傷薬を塗り、傷口をテーピン
グで縛ったりしました。しかし、翌日も痛みが引かず、少し歩くとびん
びんと痛んで足を引き摺りながら歩きました。途中のホームセンターで
大きめの靴に取り替えて見ました。しかし功ならず、時間と共に痛みが
増し、一向に痛みは和らぎませんでした。天気は良く心に勢いはあったのですが。



図—2

これまでの長年の登山経験の中でもなかった初めての苦痛・激痛が襲って来たのでした。何やら三戸^{さんし}
（私に内在する見えない虫）の魔物の意地悪なのか、などと無用な心配事が浮かんだりもしました。こう
した中で、少しだけ癒されたのが、相良を過ぎ高原状の所に上がった辺りから続く茶畑でした。初めて見
る緑豊かなこんもりとした茶畑が緩やかな起伏に合わせて、延々と続く状景が眼前一杯に展開しました。
初めて目に入った光景であり素晴らしく感動しました。それにしても、悔しくて、情けなく、地団駄を踏

んだ思いになりました。

2. 反省

(1) なぜ、こうなったのか。靴が合わなかったからです。

靴が小さかった事が原因でした。登山をやっているものとしての過信・慢心があったのか、いずれにしても判断が甘かったのです。靴の重要性は分かっていたつもりであるが、殆どが平坦な道だろうから、とにかく軽いものが良いだろう、靴の中で足が余り遊ばないように足の大きさとぴったりのサイズが良かろうと考え、ホームセンターで扱っている硬目の作業用の靴を買って履いたのです。安易な気持ちと言うか、舗装道路を長時間歩くとどうなるかと言う想像力がまったく欠如していた事による自業自得の結末でした。このままだと「足の切断も出て来るのではないか」とあらぬ心配と不安を抱くようになりました。何か悪い事でもした事への罰なのか、などと自虐的にもなりました。我慢と辛抱の限界を超えたと判断し、4日間で打ち切る事にしたのです。このような事情から途中断念し、3連泊4日間のハイクで、翌日の5月29日(土)帰宅に着きました。これから先々長い期間に渡って続けるであろう「スルーハイク」の初っ端で躓いたと言うまったく以って不名誉な出来事でした。理由はどうであれ、自分の非力を思い、とても残念・無念の極みを感じました。自宅に戻ってから皮膚科に通い、全治するまで2か月ほどを要しました。(その後、ハイク用の登山靴を何足か試してみたが、現在では、シリオ社の4Eの登山靴が一般フィットしています。)

(2) もう一つの反省点！ 靴が合う・合わないはあるにしても、他にも原因があるのではないかと振り返って思い付いたのです。“ そうだ、計画時点で [大香ブランド^{RouCon}老魂サブタイトル] を明確化しなかったからだ、海水(潮水)を背負ったものの、ただ漫然と猪突猛進したからだ ” と思ったのです。だから何らかの魔物がいたずらしたのだ！ [初挑戦、木っ端微塵の一つ星(途中リタイヤ)] は後付なのです。また、標題件名にスルーハイクという言葉を使用せず、トレイルを付したのです。

(3) この時は、前記ガーミン社GPSオレゴン機をまだ持参していませんでした。前記図-1の本を携行し、その中のイラスト図化のルートを見ながらの歩きであり、途中で大きく間違っ引き返す事や、道の分岐点で行先の選択について優柔不断、右往左往、長時間思案する(時には10分位悩む)などロスが多く、したがって、景色に見とれる、寺社に立ち寄る余裕もなく、ただただ紙のみ(同イラスト図)と眺めっこしながら歩いたと言う感じでした。紙の地図(それもイラスト)を持って歩く事の煩わしさに精神的疲れを感じました。この反省の上に立ち、歩くべき計画ルートは、国土地理院地形図(5万分の1、または、2万5千分の1)を持参するか、電子(デジタル)化を図って、その電子ルートを携行しなければならないとつくづく感じました。

3. 本件を取り上げた理由

途中リタイヤでありながら、この「歴史街道スルーハイク遊学紀行」に取り上げた理由は、初めてのスルーハイク挑戦であった事、途中挫折であったものの、上記三つの反省点を感じ、後の取り組みに大きな教訓を得る歩き旅になった事から記述したものであります。

4. 本トレイルの感想をつたない短歌で

しかし、再挑戦したいと思い、ずうっと希望を捨てませんでした。

“スタートでいきなり転び躓いて 意地悪悪魔に叱咤される”

“いざ行かん途中で中折れ挫折の身 男が廃ると誓うリベンジ”

(end)

① 2010 (平成22)年「番外編——旧塩の道 (秋葉古道)」トレイル (3連泊4日間) の歩行記録 ----- 移動行程集計表

< GPS「オレゴン機」不携帯に付き、後日歩行ルートを追跡して、「カシミール3D(フリーソフト)」により集計 >

「大香ブランド老魂サブタイトル」(この時は後付け)は ~ 初挑戦、木っ端微塵の一つ星 (途中リタイヤ) ~

累積 日数	行動月日		街道の歩行区間 通過主要地点・旧宿場名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間				平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先 (略称)	
	月 日	曜 日			歩行開始 時:分	歩行終了 時:分	歩行時間 時間:分	時間換算 時間				所在地	名称
				a	b	c	d=c-b	e	f=a/e				
前日	5月24日	(月)									(前日泊)→	静岡県牧之原市	ペンション・リリカル
												スタート	
1日目	5月25日	(火)	[相良海岸砂浜(S)]→青田峠→掛川	35.2	5:45	16:45	11:00	11.0	3.2	晴れ		静岡県掛川市	くれたけインホテル
2日目	5月26日	(水)	(前終点)→森	20.9	6:00	11:30	5:30	5.5	3.8	晴れ		静岡県森町	新家旅館
3日目	5月27日	(木)	(前終点)→三倉→春野	27.5	5:45	12:45	7:00	7.0	3.9	晴れ		静岡県春野町	民宿「しばらく」
4日目	5月28日	(金)	(前終点)→秋葉山→[水窪(G/途中打ち切り)]	22.0	6:15	15:00	8:45	8.8	2.5	晴れ		ゴール (途中リタイヤ)	
											(最終日泊)→	静岡県水窪町	旅館 中村館
			合計	106								96	←ルート沿い計画距離
			1日平均	26.4				8.1	3.4			24.0	
				km				時間	km/h			km	

(注1) ルート沿い計画距離に対して実歩行距離が、10km (1日当り2.5km程) 長くなった理由は、山道の登降 (沿面距離)、神社・仏閣立寄り等のジクザク歩き方の影響による。

(注2) 距離と時間の集計は、旧街道・古道沿い関係のみであり、長時間 (片道15分・500m程度超過) 街道を離れた場合などの移動ロスを除いて補正している。